

社会福祉法人

風土記

《1》

千葉県

社会福祉法人に対する風当たりが強い。誤報ともいえる特別養護老人ホームの3億円内部留保(1施設)データをきっかけに、関係筋は一層の社会貢献や情報公開などを求めている。「公益法人」の本旨へ改革が必要だ、と。しかし、課題は含みつつも全国約2万の法人の多くは地域に軸足をすえ、乳児院、保育園から養護老人ホームまで87種類にも及ぶ福祉事業を真摯に実践してきたのではなからうか。額に汗して歩んだその足跡と「いま」を報告し、社会福祉法人の現状や福祉の姿について共に考える糸口にしたい。

「一人ひとりに愛と希望を」

千葉県北東部の太平洋に面した匝瑳市。JR総武本線飯倉駅(無人駅)を降りると、200以上は行かない小高い丘の上に社会福祉法人「九十九里ホーム」がある。無料低額診療施設の九十九里ホーム病院(149床)を中心に特養ホーム、養護老人ホーム、障害者支援施設など9拠点21事業

所を運営する中規模の組織だ。病院利用者のため戦後できた同駅の前約1万5000平方メートルの空き地が広がる。スーパーマーケットの跡地。2年前、

九十九里ホーム(上)



創立者の宣教師
ヘンテ女史

法人が比較的安価で買取った。壊すのに2億円かかったという。

ルタントの提案した青写真をめくりながら、明るさと厳しさの入り交じっ

35(昭和10)年10月、英国聖公会の宣教師・ヘンテ女史(1878~1970)によって創立された。資産家の長女であった。キリスト教布教のため1905(明治38)年12月、日本の土を踏み。その3カ月前、1年半に及んだ日露戦争がポーツマス条約で終わ

駅前福祉村を計画

た表情をした。

「ここに高齢者や障害者、子ども(幼稚園)のゾーンからなる駅前福祉村(仮称)を計画中です。お母さんたちの雇用の場も確保したい。地方創生資金を使えないか地元自治体とも相談しますが、かなり自前資金が必要になるでしょう」
パートを含め約800人の職員の先頭に立つ井上峰夫理事長(66)は今年秋、施設創設80周年を迎える法人本部で、コンサ

市は人口3万8714人、高齢化率は30・22%に達する(今年1月末現在)。その地域の「福祉玄関口」にどの決意がにじむ。しかし、社会福祉法人は税優遇などを受け

結核の療養施設として船出



病院屋上から見た九十九里ホーム施設群
手前は礼拝堂

を告げ、しかし、条約反対の世論で国内は騒然としている時分である。一時帰国を挟んで、岐阜、呉、広島、神戸、東京などで活動した。本国からの遺産を貧民や病者の救援、教育に注ぎ、自分で教会堂も建てている。「みなさん、酒を飲むのは罪です!」

大声でこう怒鳴って下町の一杯飲み屋を回ったという。信念の強さは相当である。
当初、千葉県銚子の海辺に結核療養所(サナトリウム)を建てるつもりだった。ところが地元民は猛反対。そのころ、結核は死病と考えられていた。意気消沈して同地を去る道すがら、八日市場町(現・匝瑳市)の小高い丘(「イナゴ山」といった)に理想郷を見出す。

苦勞して土地購入

苦勞のすえ土地を購入、結核患者などの療養施設(定員18人)として船出し、敗戦直前にサナトリウム(病院)となり、今に至る礎を築くこ

とになる。
日中戦争の激化で離日するが、戦後、連合国軍最高司令官マッカーサー元帥の招請で救済事業へ復帰。社会福祉事業法施行(1951年)の翌年に社会福祉法人となり、一般病院へ変更(1957年)するなど施設やサービスを拡充してきた。
「一人ひとりに愛と希望を」。これが日本で約45年を過ごした彼女の、そしていまなおホームに掲げる理念だ。
【横田 一】